

## 卒業生代表のことば

日差しが日々やわらかくなり、梅のつぼみも色付き始め、確かな春の到来を感じる朝となりました。本来ですと、喜び、悲しみを分かち合う時間ではありませんが、今回は新型コロナウイルスによりマスクを着用しての式となりました。中止とする学校もあるなか、私たちのために準備を進めてくださったこと、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

この三年間で経験したこと、学んだことは全て密度の濃く、一生の財産になるものばかりでした。新しい生活への期待と不安が折り重なった入学式を始め、全員が勝利を信じ声を揃えて応援した夏の高校野球、それぞれのクラスが個性豊かなユニフォームで挑んだ競技大会、歴史と文化に触れ、戦争の悲惨さを目にし、平和について考えることのできた修学旅行、皆が一致団結して大成功を収めた文化祭など、充実した思い出が私たちの胸に残っています。

入学当初、私にとって周囲の人たちの部活に対する真剣な態度は本当に印象的でした。夢中になれるものがあり、目標にむかってひたすら努力する人は自然と輝くものなのだと感じたのも、この瞬間です。一方、勉強だけに打ち込む私は、このままでいいのだろうかと不安になる時もありました。運動部で活躍する人たちと自分をつつの間にか比べてしまっていました。

しかしそんな私の悩みは、友人たちと過ごしている内に少しずつ晴れていきました。同じ立場で努力する友人、自分も部活動で忙しいのに応援の言葉を掛けてくれる友人など、接してくれた人たちのおかげで、私は自分の立場に気付き、目標を見つけることができました。さらにもう一度周囲を見渡すと、地元を離れて学校生活を送っている人、部活動のプレッシャーと闘っている人、勉強と部活動

を両立させている人。それぞれがその人にしか分からない辛さを抱えているはずなのに、弱さを見せず、楽しそうに過ごしている光景がありました。クラスメイトの姿を見る度に、私は自分自身を奮い立たせることができました。

卒業後、私たちは自分の進路へ進みます。支え合ってきた仲間との別れは実感し難いものがありますが、新しい環境でも成長し続けたいと思います。私は地域の発展に携わりたいと考えているため、行政を学べる道へと進むことに決めました。

今年は例年のような積雪はありませんでしたが、寒い冬も終わりを告げ、この信達野に桜が咲き誇り、一面の桃の花で覆われる時期はすぐそこまで来ています。豊かな自然と温かな学習環境の下で、充実した三年間を送れた私たちは幸せでした。そして、聖書のみことば通りに、今ある生活が有り難いものであることを自覚しながら、これからも感謝の気持ちを忘れずに生きていきます。卒業までの時間を走り抜けることができたのは、かけがえのない友、手厚く指導してくださった先生方、常に傍で支えてくれた両親のおかげです。本当にありがとうございます。多くの実りを手にし、巣立つことのできる喜びを、今まさに誇りとして、感謝の思いと共に感じています。

最後になりましたが、母校、聖光学院高校の益々の発展と、本日も列席の皆様のご活躍を心から祈念し、代表の言葉とさせていただきます。

令和二年三月二日

卒業生代表 普通科進学コース

山本 真弥

